

診療所だより

診療同行記

今回は延岡家畜診療所の濱田獣医に同行し、診療現場の様子を紹介します。

往診先は北方町。広範な地域なので、効率的な往診順番を決めて出発。



去勢の様子

1戸目は「去勢をお願いします」との依頼。

「化膿したらいけないので1週間くらい中を湿らせないようにし、敷料を多く入れてください」また「8月生まれにしては少々太りが悪いようなので、飼料を多めに食わせてください」と指導しました。



2戸目はスタンチオンの段差につまずき左前足を怪我した成牛の継続治療です。牛が動くので包帯を巻くのが難しい。

「牛舎にもバリアフリーの考えが必要です」と立ち会った奥さんが話していました。

3戸目「発情がはつきりしない、治療をお願いします」繁殖障害の治療をする。

「卵胞のう腫になっている。肥え過ぎた牛、子宮の中が汚れている牛などがなりやすい。2週間くらい様子をみます」



もう1頭は種付け後3ヶ月。「昨年流産しているので、心配なのですが」と畜主さん。予防のための注射をする。

4戸目「子牛の毛が抜ける。しらみでは」と心配して往診依頼の奥さん。

「これは毛の生え変わりです」との説明に「安心。」

5戸目はコクシウムによる血便が続ぎ、今日が4回目の往診。

「コクシウムは畜舎消毒と早期発見、早期治療が大切です」

6戸目もコクシウムの継続治療。なかなか完治しない。「だいぶ元気になって、エサを欲しがるようになった」と畜主さん。「普通の糞が出るようになるまで、もう少し治療します」



血液まじりの糞が付いています

7戸目は、1月8日生まれの子牛が白痢になり継続治療。点滴と注射をしました。

「白痢は伝染するので早く治療を受けてください」



点滴。畜主も心配

この後、3戸の農家で5頭を治療しました。この日は、途中で急患もなく順調に往診できましたようです。日頃から良^く牛を観察し、早く異常を見つけてください。

診療依頼のポイント

- ① 往診依頼は午前9時まで
- ② 集落名・氏名をハッキリと
- ③ 病気の状態を詳しく伝える
- ④ 家畜共済加入証を準備する